

事業コード	0040501	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
事業名	風しん予防接種緊急支援事業	施策コード	04	施策名	「スポーツ立県あきた」の推進
		指標コード	05	施策目標(指標)名	その他施策関連事業
部局名	健康福祉部	課室名	健康推進課	班名	健康危機管理・疾病対策班 (tel) 1424
				担当課長名	鎌田雅人
				担当者名	池田聡彦
評 価 対 象 事 業 の 内 容					
事業年度 平成25年度 ~ 平成25年度					

1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか)
 平成24年~25年にかけて風しんが首都圏や関西を中心に大流行した。妊娠初期の女性が風しんにかかると胎児が風しんウイルスに感染し、「先天性風しん症候群」の症状を持った赤ちゃんが高確率で生まれることがある。県内では平成25年度当初は流行していなかったが、風しんは春から夏にかけて流行する傾向にあることから全国的に拡大する可能性があり、更に、夏場に向けての行楽期や帰省シーズンには多くの人々が移動するため、感染の機会が増加することが懸念されることから、妊婦に対する風しんの感染予防策を推進し、「先天性風しん症候群」の発生防止を図る。

1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点
 国の予防接種施策により風しんの定期接種対象となっていない等の成人男性を中心に患者が増加し、先天性風しん症候群が全数把握疾病となった平成11年4月以降最大数となった。定期接種が2回実施されるようになると、概ね4年ごとに繰り返していた流行がなくなり、自然感染によるブースター効果が得られなくなった可能性がある。

2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの)
 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期: 年 月)
 満足度の把握方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に)
 満足度の状況

3. 事業目的(どういう状態にしたかったのか)
 先天性風しん症候群の発生防止

4. 目的達成のための方法
 事業の実施主体
 市町村
 事業の対象者・団体
 妊娠を予定又は希望する女性及び妊婦の夫
 達成のための手段
 風しん予防接種費用の負担軽減措置を実施する市町村に対し、その費用を助成する。

5. 前回評価における指摘事項等

指摘事項	
指摘事項への対応	

6. 事業の内容
 事業概要及び推進状況
 先天性風しん症候群の発生防止のため、妊娠を予定又は希望する女性及び妊婦の夫に対する風しん予防接種費用の負担軽減措置を実施する市町村に対し、その費用を助成する。

事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
一般財源		45,102	10,697
事業費計		45,102	10,697
財源内訳	国庫補助金		
	県債		
	その他		
	一般財源	45,102	10,697

当初計画及び最終の事業費比較
 最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.24)

7. 事業の効果及び課題の改善状況
 4,370人が無料で任意接種を実施。平成25年度の風しん大流行時の患者数は、全国では14,357人、秋田県は全国最低値の4人。先天性風しん症候群は0人。

8. 事業の効果을把握するための手法及び効果の見込み

指標名										指標の種類
指標式										成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当										
指標	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	全体		
目標a										
実績b										
a/b										
データ等の出典										
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月										

指標名										指標の種類
指標式										成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当										
指標	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	全体		
目標a										
実績b										
a/b										
データ等の出典										
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月										

指標を設定できなかった場合の効果の把握方法

指標を設定できなかった理由
 任意の予防接種であること及び実際に接種が必要な対象者数の把握が困難であることから、指標の設定は困難である。

成果(見込まれる効果)
 接種しやすい環境が整ったことについて、接種者数により一定の効果は把握できる。

所管課の評価		評価結果
有効性の観点	住民満足度の状況 a b c 【b又はcの場合の分析】 4,370人が無料で任意接種を実施。平成25年度の風しん大流行時の患者数は、全国では14,357人、秋田県は全国最低値の4人。先天性風しん症候群は0人。	A
	事業の効果 適用の可否 可 不可 a 達成率100%以上 b 達成率80%以上100%未満 c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】 感染症の予防効果については評価困難である。 4,370人が無料で任意接種を実施。平成25年度の風しん大流行時の患者数は、全国では14,357人、秋田県は全国最低値の4人。先天性風しん症候群は0人。	B
	事業の経済性の妥当性 適用の可否 可 不可 a 1.0~ b 0.8~1.0 c ~0.8 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】 国が示した計算式(診療報酬ベース)を用いて積算。	C
効率性の観点	$\left[\frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$	A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	<p>A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)</p> <p>風しん及び先天性風しん症候群対策として緊急的に実施し、4,370人が無料で任意接種を受けることができた。特に、風しんに感受性のある女性には、この度の風しん大流行のように職場等で感染拡大したとしても、安心して妊娠することができる等の安心感を醸成。</p>	
総合評価	評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)	
	政策評価委員会意見	

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	1		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		B:有効性はある (1~3点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	2		B	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	1		B
						1次	2次

(注) 事業経済性の算定式

$$\left(\frac{\text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費}}{\text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費}} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		